

## MSK震度階

### MSK震度階 えむえすけいしんどかい

地震動の強さを物体の運動や人体感覚によって階級付けたものの一つであり、日本では気象庁の8段階の震度階を採用している。米国、イタリア等で採用されている改訂メルカリ震度階（Modified Mercalli、MM震度階という）は12段階である。MSK震度階はMedvedev（ロシア）、Sponheuer（ポーランド）、Karnik（チェコスロバキア）が作成した案（三者の頭文字をとってMSK震度階という）を地震学・地震工学政府間会議（1964）で暫定的に国際震度階にすることになった。MSK震度階はMM震度階とほぼ同一であり12段階の震度階を採用している。

---

<登録年月>

2001年09月

---

---

## 旧ソ連文献での地震のMSK震度階

震度 (バール)	強さ	簡単な特徴
1～2	目立たない震動	地震計のみ感知。
3	弱震	小人数が気付く。
4	中震	物のゆれが目立ち、食器や窓ガラスが音をたて、壁がきしむ。
5	かなり強い	大部分の人が感じる。漆喰にひび、時計が止まる。
6	強震	すべての人が感じる。煙突が倒れ、漆喰がはげ落ち、物が落ちる。
7	非常に強い	石造りの家の壁にひび。
8	破壊的	急坂の地面に亀裂。壁や天井が一部倒壊。
9	壊滅的	すべての建物がほとんど完全に破壊。
10	破滅的	地面に深さ1メートルまでの亀裂。崖崩れ、落盤。
11	破局	地面に目立った変化。鉄道の線路がわん曲。
12	強い破局	地形に著しい変化。

なお、震度の単位として用いられているバールは、ロシア語で「等級」という意味。

(注) 原典「ATLASUSSR」(ソ連邦閣僚会議附属測地及び地図作成総局・発行、MOSKVA, 1983)の地図に併記されている震度階表を翻訳したものである。

**【出典】(社)海外電力調査会:海外電力(1989年3月号)**